

春日町町会プロジェクト

最終報告 ver2

2021年12月9日



目次

I. 本プロジェクトについて

1. プロジェクト概要
2. アンケート調査の目的・仮説
3. 調査実施概要

II. 子育て世代へのアンケート調査結果

1. 回答者の属性
 - (1) 年齢・性別・居住地域
 - (2) 子どもの年齢
 - (3) 居住年数
2. 地域へのニーズ
 - (1) あったらよいと思うもの
 - (2) 参加したいイベント
 - (3) 地元情報の収集に便利な方法
3. 地域活動への協力
 - (1) 協力してもよいと思うか
 - (2) 協力してもよいと思う内容
 - (3) 協力しやすい条件
4. 町会について
 - (1) 町会への参加状況
 - (2) 町会に入っていない理由
 - (3) 町会に入ってよかったこと

III. 調査結果のまとめ

1. 調査結果・考察と施策の方向性
 - (1) 子育て世代の地域へのニーズ
 - (2) 子育て世代の地域活動への協力についての意識
 - (3) 子育て世代の町会に対する認識
2. 町会の課題と施策の関係（イメージ）
3. 施策概要

IV. 施策のご提案

1. 町会の課題と子育て支援の強化
 - (1) 町会の課題とその解決に向けて
 - (2) 子育て世代への取り組みを増やす意味
 - (3) 応援したくなる雰囲気づくりの醸成
2. 子育て世代を巻き込んだ体制づくり
 - (1) アウトライン－アソシエーション型での活動－
 - (2) まずは協力者をつながる！－「春日町協力隊」の設立とメンバー募集－
 - (3) 協力者に実際活動してもらおう！－活動グループの立ち上げ－
 - (4) 将来構想と実現ステップ－専門部門「子育て支援部」の立ち上げ－
3. 活動内容の具体案
 - (1) 持ち込み企画サポートプロジェクト
 - (2) 町会会館を活用した「子どもの居場所」
4. 本アンケート結果のフィードバック
5. その他アイデア集

I. 本プロジェクトについて

1. プロジェクト概要
2. アンケート調査の目的・仮説
3. 調査実施概要



1. プロジェクト概要

■ 支援内容（「プロボノプロジェクト基本情報シート」より）

- 今回のプロジェクトでは、子育て世代の住民をターゲットに町会活動へのニーズ調査を実施します。新たな世代のメンバーによる町会活動の企画運営を見据え、子育て世代の皆さんが入会し、興味を持つイベントや活動に参加しやすい仕組みについてなど、町会へのニーズを的確に把握することが目的です。また、地域の中で活動したいと考える若い人たちがいれば、町会も活動の場のひとつと知ってもらうようなつながりづくりもできるかもしれません。地域の学校のPTAや保育園等を通じた子育て世代へのアンケートまたはヒアリング調査を行い、その結果分析に基づき、今後の町会活動における施策アイデアも合わせて提案します。

<実施事項>

- ・ キックオフ/中間報告/最終報告ミーティング
- ・ 子育て世代へのアンケート調査（Web調査）
- ・ 調査結果の分析と施策アイデアの提案

■ 支援期間

- 2021年10月～12月

2. アンケート調査の目的・仮説

■ アンケート調査の目的

- これまで十分に町会活動に反映できていない「子育て世代のニーズ」について、特に「交流」・「イベント」に重点を置いて把握する。
- 今後、実際に子育て世代のニーズにも対応した町会活動を行うにあたり、子育て世代の住民自身に、単なる「参加者」ではなく「企画・運営サイド」として関与してもらうための働きかけのヒントを得る。

■ 主な仮説

- 子育て世代は、これまで町会が行ってきた活動とは異なるタイプの企画・イベントを求めているのではないか。（気軽な交流、特技をいかせる活動、SNSの活用 etc...）
- 子育て世代にも、地域を盛り上げる・よりよくするための手伝いをしたいという思いはあるものの、さまざまな制約で実際の行動につながっていないのではないか。参加しやすい条件が整えば協力してくれる人もいないか。
- 子の年齢や居住年数等によって、状況やニーズが異なるのではないか。

3. 調査実施概要

タイトル	春日町活性化プロジェクト アンケート調査
内容	<ol style="list-style-type: none">1. 回答者の属性（年齢、性別、子の年齢、居住地域・年数）2. 地域へのニーズ（あったらよいと思うもの、参加したいイベント、地元情報を知るのに便利な方法）3. 地域活動への協力（協力意思、協力してもよいと思う内容、協力しやすい条件、連絡先（協力可能な場合のみ））4. 町会について（参加状況、入っていない理由／入ってよかったこと、町会へのメッセージ）
期間	2021年11月5日（金）から順次開始、11月17日（水）まで
対象	春日町および周辺地域の子育て世代の方（有効回答数133件）
方法	以下の施設等にアンケート依頼チラシを掲示／配布し、Webアンケート（Googleフォーム）にて回答を得た。 －春日町内の幼稚園・保育園・小学校 －「ぴよぴよ」や児童館などの子育て支援施設 －その他公共施設（区民センター、図書館、青少年会館など） －子育て関連NPOの活動場所（プレーパークなど） －子育て世代の来訪が多い民間施設（スーパー、コンビニ、カフェなど） －町会の掲示板やFacebook

Ⅱ. 子育て世代へのアンケート調査結果

1. 回答者の属性
2. 地域へのニーズ
3. 地域活動への協力
4. 町会について



1. 回答者の属性 (1) 年齢・性別・居住地域

- 11/17時点でのアンケート回答総数：133名
うち、春日町在住者は87名。また春日町在住者では30代の回答者が半数（49.4%）、40代(46.0%)を合わせると95%以上となる。また、ほぼ女性からの回答であったが、男性も全体で12名うち、春日町在住者11名の回答も得られた。

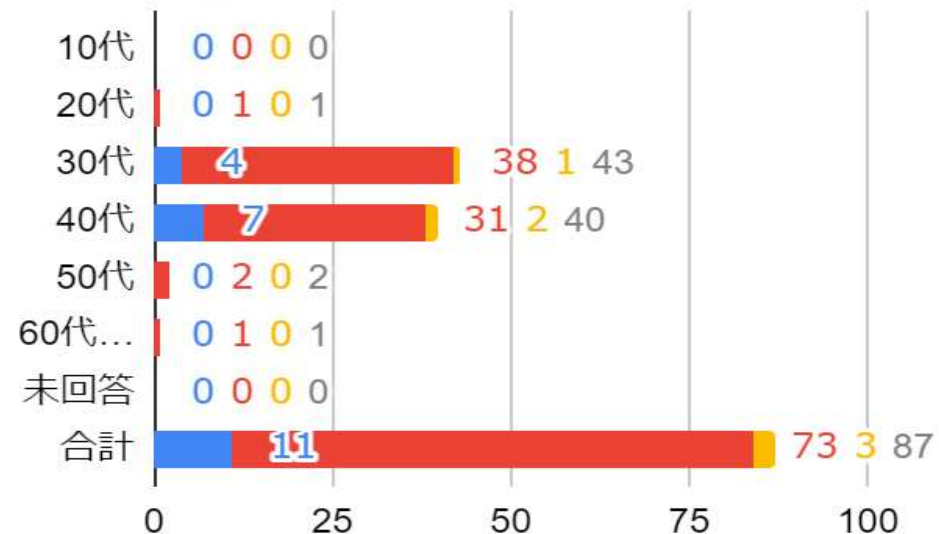
Q.1あなたの年齢を教えてください。Q.2.あなたの性別を教えてください。Q.4.あなたの住んでいる地域を教えてください。



春日町のみ

回答数87

■ 男性 ■ 女性 ■ 未回答 (※グレーの数字は合計数)



1. 回答者の属性 (2) 子どもの年齢

- 回答いただいた子どもの総数、227名。(春日町：151名)

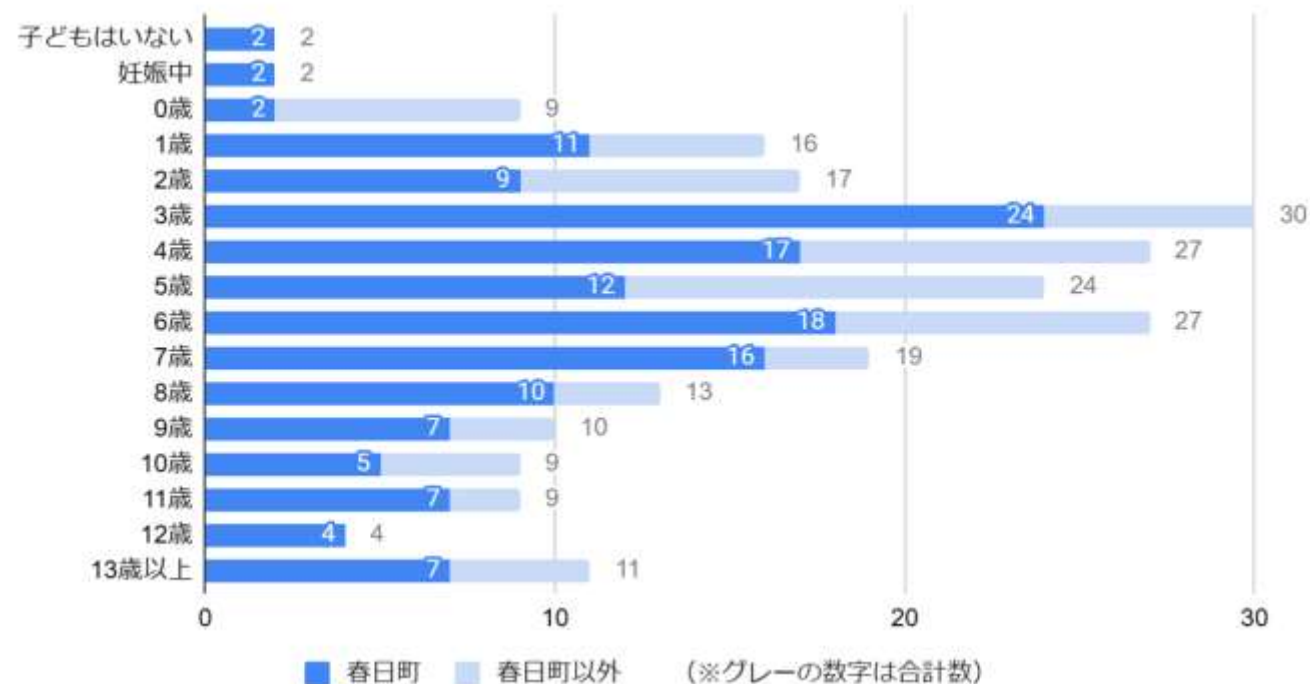
- 春日町のみ

- 子ども1名：31世帯
- 子ども2名：43世帯
- 子ども3名：10世帯
- 子ども4名：1世帯

- 狙い通り、3～6歳の子育て真っ只中の保護者の回答を得ることができている。

Q3.お子様の年齢を教えてください。お子様が2名以上の場合は、複数回答をお願いします。

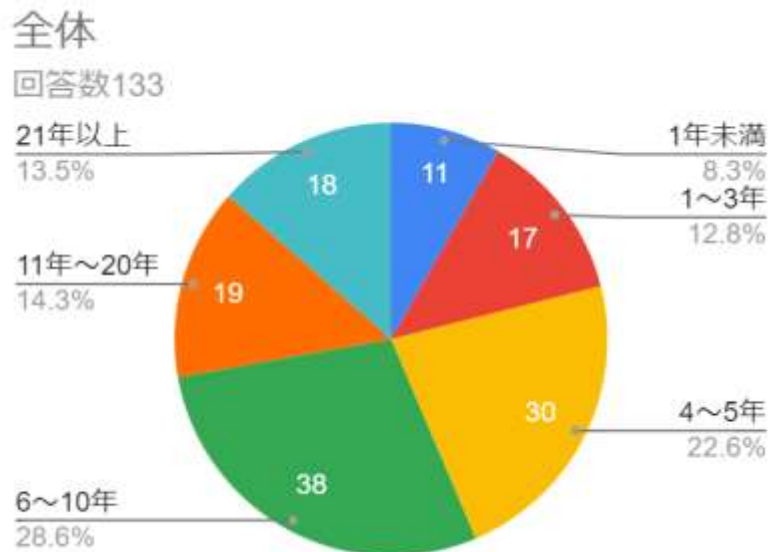
回答数133 (うち春日町87)



1. 回答者の属性 (3) 居住年数

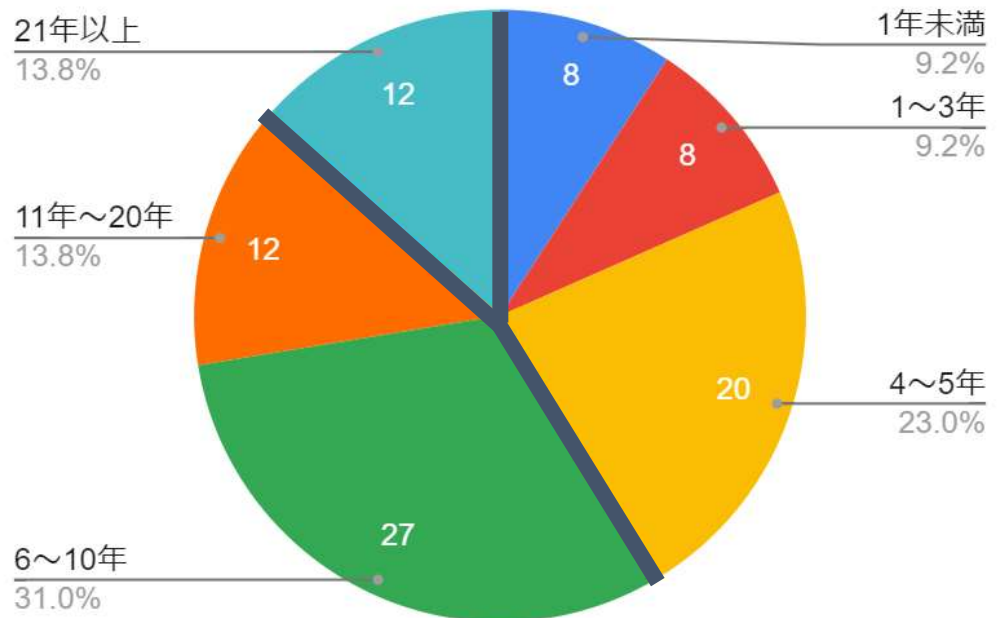
- 春日町在住者の居住年数を確認すると、短期～長期居住者の割合が高く、今後の町会活動を担う年齢層からの回答があったことが推察される。
 - 短期居住者（1年～5年）：41.4%
 - 中期居住者（6年～20年）：43.8%
 - 長期居住者（21年以上）：13.8%

Q5.現在住んでいる地域の居住年数を教えてください。



春日町のみ

回答数87

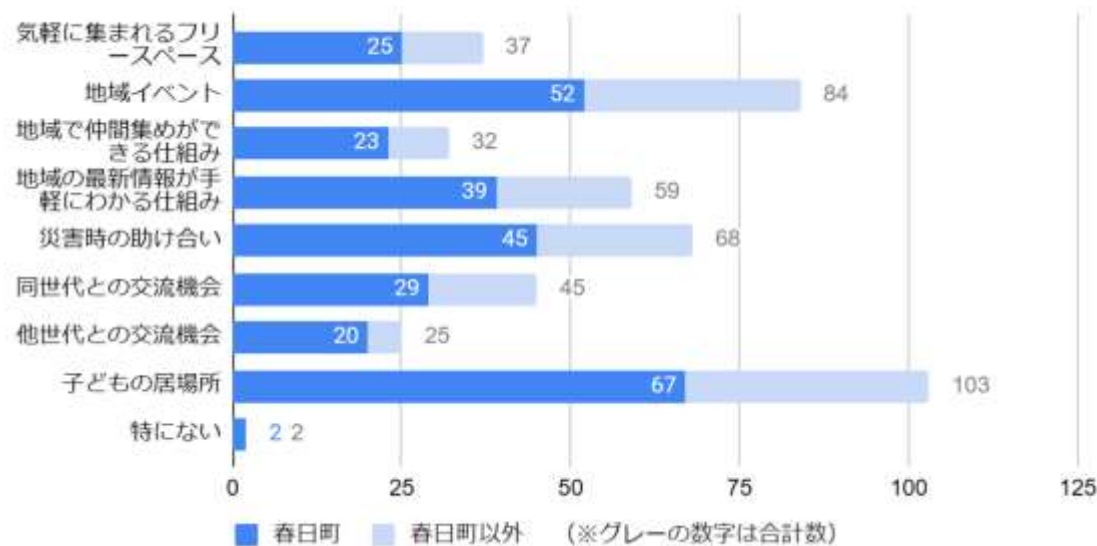


2. 地域へのニーズ (1) あったらよいと思うもの

- 子どもの居場所(春日町のみ77.0%、全体77.4%)、地域イベント(春日町のみ59.8%、全体63.2%)のニーズが高い
- 春日町内では子どもの居場所77.0%、地域イベント59.8%、災害時の助け合い51.7%、地域の最新の情報が手軽にわかる仕組み44.8%と多様なニーズがある。
- 子どもの居場所について子供の年齢別にこの項目を選択した人の割合は0～2歳90.2%、3～5歳81.3%、6～8歳69.5%、9～11歳90.5%、12歳以上91.7%。全ての年齢について高く、特に保育園と学童にいく年齢以外の子どもに対して居場所を必要としている人が多い。

Q6.住んでいる地域がより住みやすい町になるために、どのようなものがあったらよいと思いますか？

回答数133 (うち春日町87)



<その他>

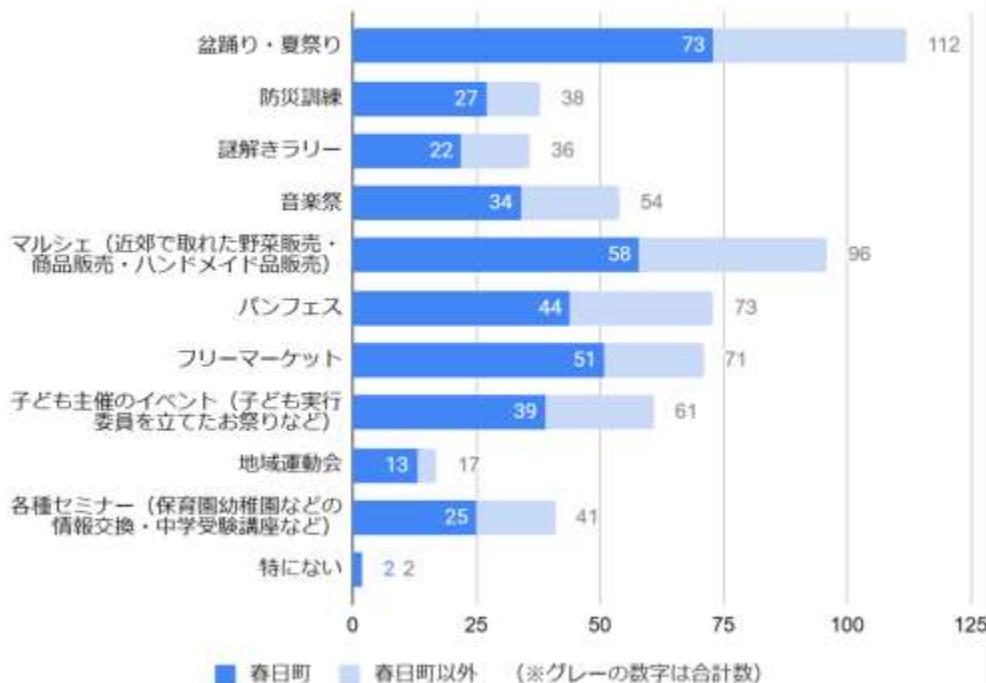
- ・ マルシェなどができるイベントスペース
- ・ 楽しい遊具がある公園
- ・ シェアオフィスやワークスペース(託児付きだとありがたい)
- ・ スキルシェアリングサービス
- ・ 子どもの食と教育
- ・ 駅前、商店街の活性化、明るい街づくり
- ・ 仲間を集めるための交流よりも先に春日町という街が好きになるような街づくり。自ずと春日町が好きな人が増えて交流もしやすくなる
- ・ 商店街の活性化

2. 地域へのニーズ (2) 参加したいイベント

- 盆踊り(春日町のみ83.9%、全体84.2%)、マルシェ(春日町のみ66.7%、全体72.2%)、フリーマーケット(春日町のみ58.6%、全体53.4%)、パンフェス(春日町のみ50.6、全体54.9%)、など時間を定めず自由に出入りできるもの、買い物できるものが人気。

Q7.住んでいる地域でどんなイベントがあったら参加したいですか？

回答数133 (うち春日町87)



<その他>

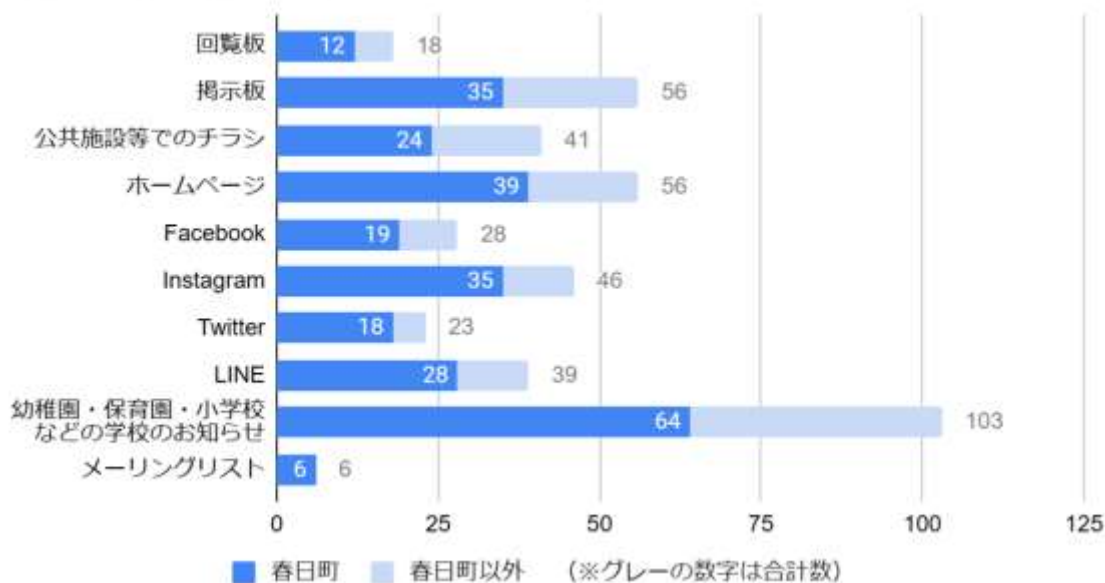
- ・餅つき、お神輿
- ・PTA活動のように、何かをやるからあなたはこれをして等と縛られてしまう(強制加入)のがトラウマです。自分からやりたくてやるのと、やらされるのでは大きく違います。もともと企画したり運営するのは好きだったのがモチベーションが下がってしまいました。そういうしがらみが無ければありがたいです。
- ・IMAホールで未就園児向けのワンコインコンサートなど
- ・逃走中、どんと焼き
- ・ハロウィンパレード
- ・有機食材と農業のイベント
- ・春日町は広く、お店も分散していたり、メインストリートや人がにぎわう場所がない。イベントをする場所が普段から明るいイメージの場所であったりすると尚いいと思います。

2. 地域へのニーズ（3）地元情報の収集に便利な方法

- 学校のお知らせ(春日町のみ73.6%、全体77.4%)、ホームページ(春日町のみ44.3%、全体42.1%)、掲示板(春日町のみ40.3%、全体42.1%)のニーズが高い。
- SNSではインスタグラム(春日町のみ40.2%、全体34.6%)が一番、次いでLINE(春日町のみ31.0%、全体28.6%)ニーズが高い。
- 今回のアンケート回答者のほとんどが学校のお知らせを見て回答しているためお知らせを選択する方が多かったと思われる。

Q8. イベントなどの地元情報は、どのような方法で知ることができると便利ですか？)

回答数133（うち春日町87）



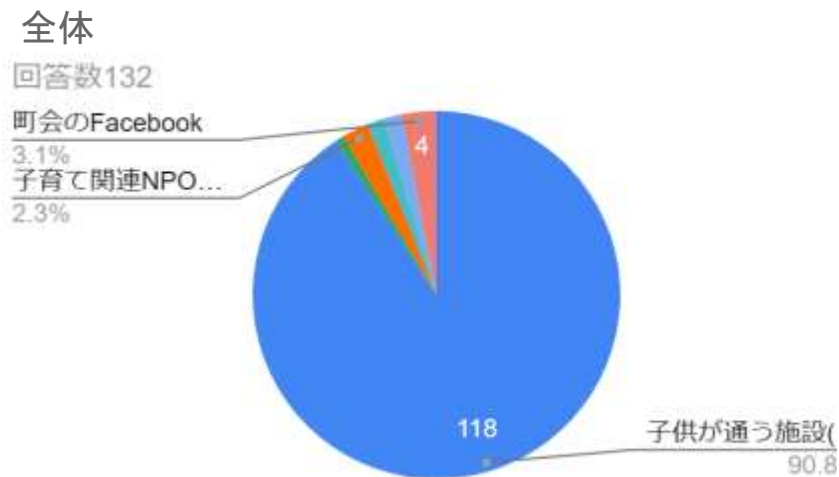
<その他>

- ・友人とのLINEグループにて
- ・紙媒体は見やすいし自身も紙媒体派ですが、マスへの発信となると、地球環境のことを考えたらデジタルでの情報提供の方が良いのかも
- ・Instagram、Twitterは最も重要。先延ばしにすると廃れるから今やるのが先に繋がるために大事！！掲示板、回覧板はSNSを見ない世代の方にも伝わるツール、にしても回覧板が古すぎる。情報過多、ボロボロ、広い世代が目を通すようになるには今のままでは無理かと。高齢世代向けにしても、手に取りたくなるモノを。

(参考) 本アンケートをどこで知ったか

- 子どもが通う施設からの案内が有効(春日町のみ86.2%、全体89.4%)

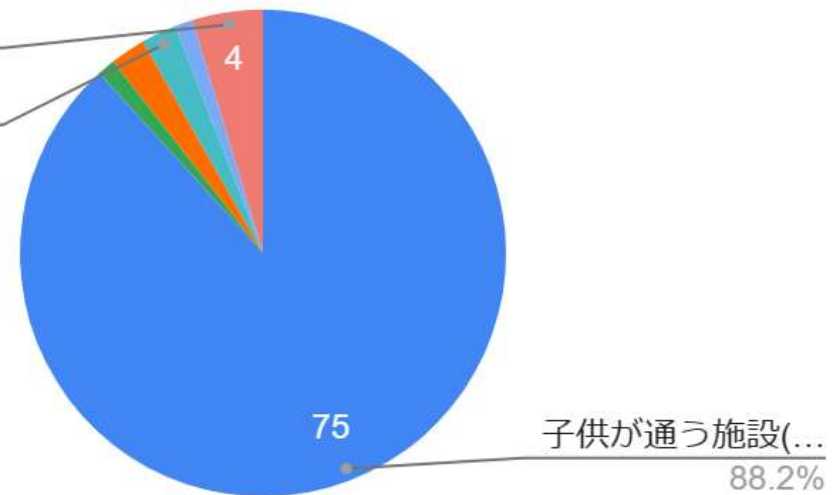
Q16.このアンケートはどちらでお知りになりましたか？



春日町のみ
回答数87

町会のFacebook
4.7%

民間施設(スーパ...
2.4%



<その他>

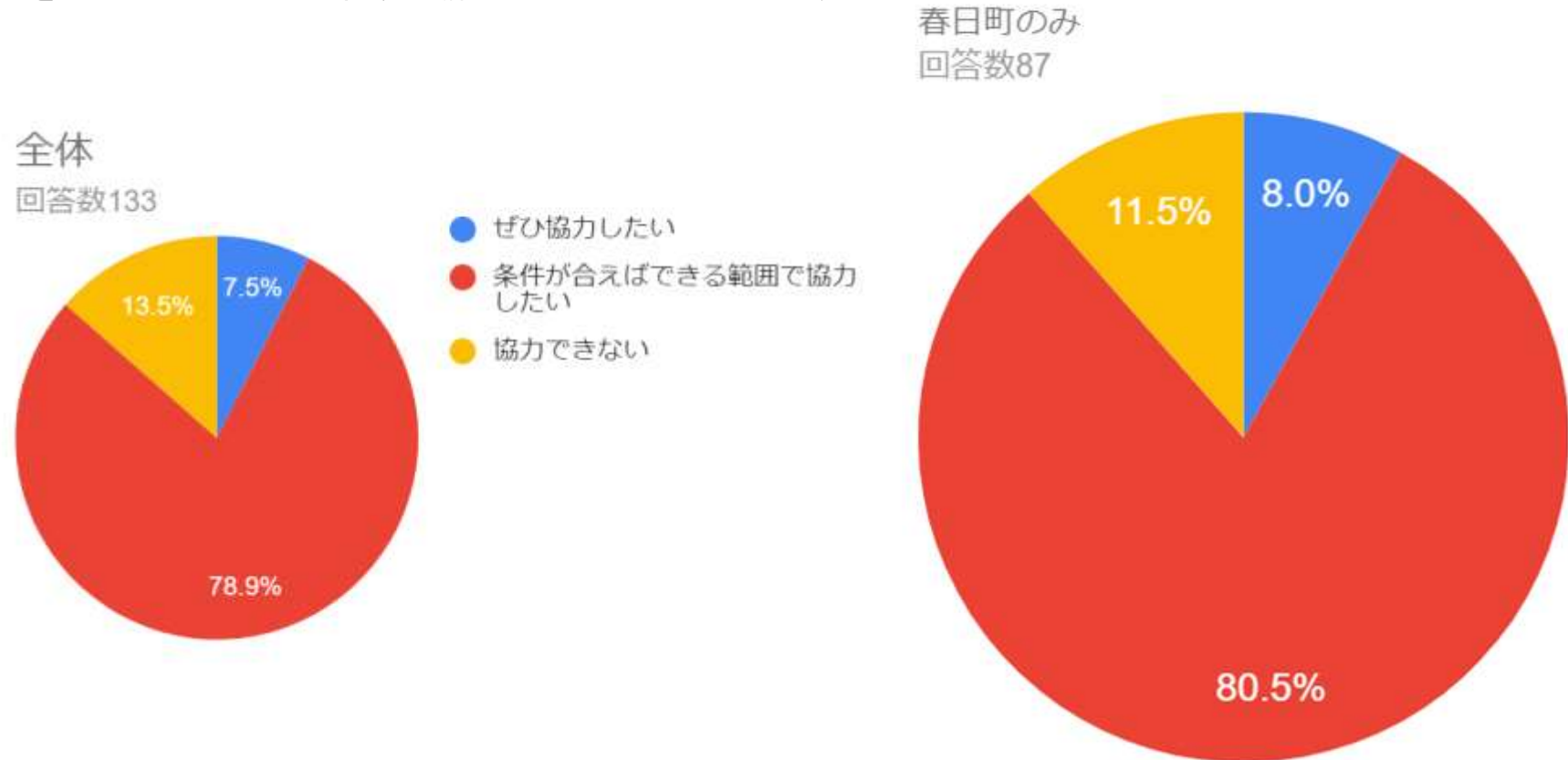
・ポスティングのちらし

・友人から

3. 地域活動への協力 (1) 協力してもよいと思うか

春日町のみでは「ぜひ協力したい」と「条件が合えば協力したい」を合わせると88%もいることから協力の意思をもっている住民の多さが伺える。なるべく個々人の状況に合わせた機会の提案をしていくことが協力者の獲得に繋がると考えられる。

Q9.地元を盛り上げるための活動に協力してもいいと思いますか？

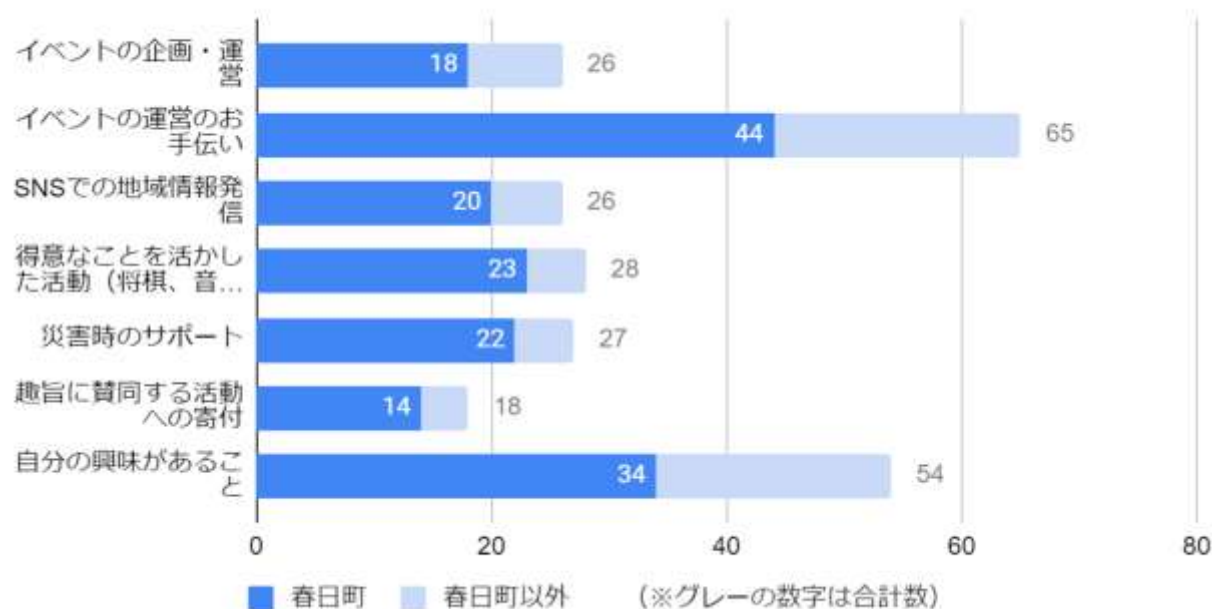


3. 地域活動への協力（2） 協力してもよいと思う内容

春日町のみでは「イベント運営のお手伝い」が44名（58%）と高く、次いで「自分の興味があること」が34名（45%）だった。先の質問で家庭や子どもを優先したい意向が高かったことを踏まえても当日のみのお手伝いならという意識があったことが伺える。また、興味あることは手伝っていききたいという思いがあることからイベントの種類も幅広く増やしていればより協力者の獲得ができると考える。

Q10.【Q9で「1」または「2」（協力したい）と答えた方】どのようなことなら協力してもよいと思いますか？（複数回答）

回答数111（うち春日町76）

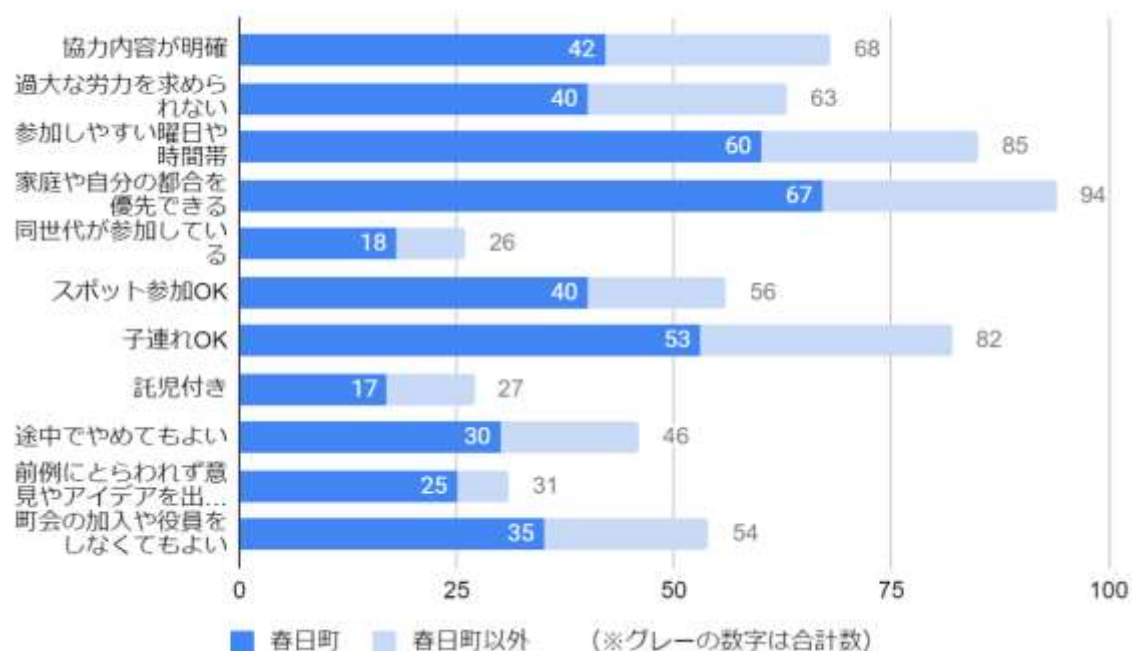


3. 地域活動への協力 (3) 協力しやすい条件

春日町のみでは「家庭や自分の都合を優先できる」が67名（88%）「参加しやすい曜日や時間帯」60名（79%）「子連れOK」53名（70%）と個人の都合や家庭、子どもを優先させることができる協力条件を求める人が多いことがわかる。このため協力者を募集する際には「手伝える日のみの参加OK」や「子連れOK」などの文言を入れて募集することが応募者の獲得に繋がると考えられる。

Q11. 【Q9で「1」または「2」（協力したい）と答えた方】どのような条件なら協力しやすいですか？（複数回答）

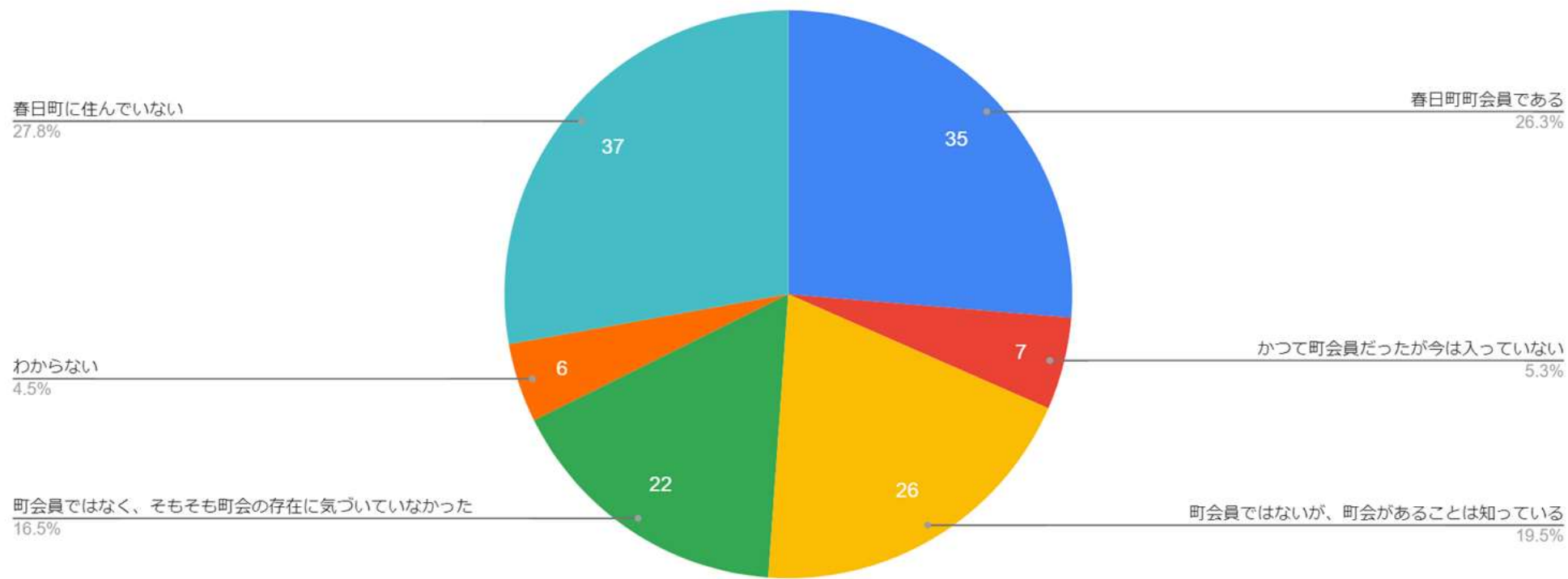
回答数113（うち春日町76）



4. 町会について (1) 町会への参加状況

- 回答者のうち春日町町会員は26.3%、春日町非町会員は73.7%の割合であった。春日町民かつ非町会員では「町会員ではないが、町会があることを知っている」が一番多く、「町会員ではなく、そもそも町会の存在に気づいていなかった」が続いた。

回答数133

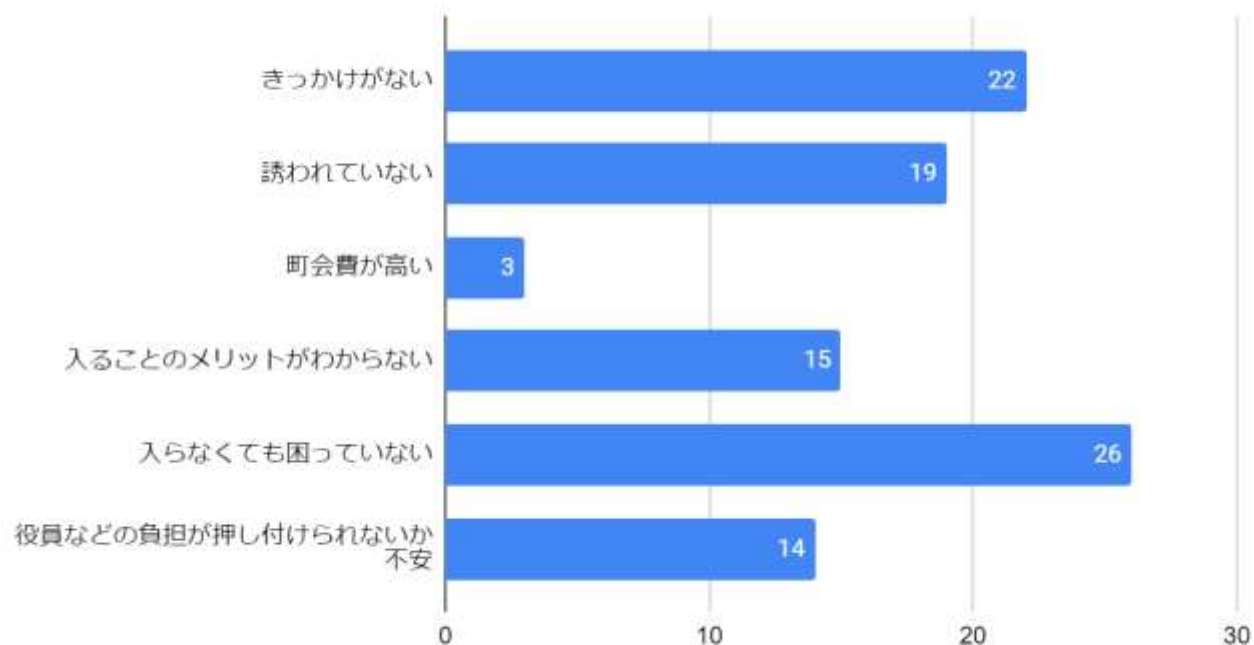


4. 町会について (2) 町会に入っていない理由

- 「入らなくても困っていない」が最も多い回答となっており、「町会＝入らないと困るもの」ではなく「入ってみたい」と思わせる魅力をアピールしていくことが今後のポイントになると考える。また、春日町非町会員のうち、町会に入っていない理由として「きっかけがない」「誘われていない」が約83%を占めており、機会がないことを挙げている。

Q14.【Q13で「2」～「5」（現在町会員ではない・わからない）と答えた方】町会に入っていない理由を教えてください。（複数回答）

回答数（春日町のみ）49



4. 町会について (3) 町会に入ってよかったこと

- Q15. 【Q13で「1.町会員である」と答えた方】町会に入って良かったことがあれば教えてください。

- ① 特にない (7名)
- ② 祝い金を貰える (4名)
- ③ 地域との繋がりが持てる (3名)
- ④ 地域の情報が得られる (2名)

大きく分けて4つの回答があり、上記の順番に回答数が多かった。厳しい意見ではあるが、現時点で町会に入っていることにメリットを感じにくい状況のようだ。

Q6. 住んでいる地域がより住みやすい町になるために、どのようなものがあったらよいと思いますか？では「災害時の助け合い」の回答も多く、町会の強みを活かせるようなことを求める結果も出ていることから、ここに町会の良さを感じてもらうヒントがあるように考える。

Ⅲ. 調査結果のまとめ

1. 調査結果・考察と施策の方向性
2. 町会の課題と施策の関係（イメージ）
3. 施策概要



1. 調査結果・考察と施策の方向性

(1) 子育て世代の地域へのニーズ

調査結果と考察

- ★ 「地域イベント」と「子どもの居場所」のニーズが特に高い。
 - イベントは、時間を定めず自由に入出りできるものや買い物できる（≒大人も楽しめる）ものの人気が高い（盆踊り・マルシェ・フリマ・パンフェスなど）。
 - 一方で、イベント等の特別なことではなく、普段から利用出来る「子どもの居場所」も求められている。なお、「気軽に集まれるフリースペース」も約3割が選択するなど、子どもの居場所に限らず「場所の提供」には一定のニーズがあると考えられる。
- ★ 次いで、「災害時の助け合い」や「地域の最新情報が手軽にわかる仕組み」のニーズも高い。
 - 「災害時の助け合い」は町会加入のメリットとして訴求しやすいのではないかと。
 - 地域情報は、幼稚園・保育園・小学校からのお知らせや町会掲示板、SNSなど、受動的に受け取ることができたり、生活のなかで特別意識せず気づくことができるもののニーズが高いと考えられる。

施策の方向性

1

子育て世代向けイベントの実施と有効活用

2

町会会館を活用した「子どもの居場所」の提供

3

町会情報の発信力強化

1. 調査結果・考察と施策の方向性

(2) 子育て世代の地域活動への協力についての意識

調査結果と考察

- ★ 回答者は「ぜひ協力したい」「条件が合えば協力したい」と協力的な人が多くおり、潜在的な協力者候補はいる。実際に連絡先の記入があった回答者も24名おり、協力の本気度がうかがわれる。
- ★ 内容面ではイベント運営のお手伝いや自分の興味があること、条件面では個人の都合や家庭・子どもを優先できることに対して協力意識が高く、「自分に合う企画」に対して「スポット支援」のような形ならば協力してもいいと考えている人が多いように感じられる。
- ★ 協力者を募集する際には、子連れOKなど子育て世代特有の事情に配慮することや、協力内容を「見える化」することなどがポイントと考えられる。
- ★ 一方で、お手伝いととどまらず「イベントの企画・運営」に協力意思のある回答者も一定数いる。例えば、町会員以外の人からも持ち込み企画を受けつける枠を設けるなど、このような方々をコアメンバーに引き込んでいけるよう、今回収集した連絡先の活用などの働きかけが有効と考えられる。

施策の方向性

4 子育て世代の協力を得やすくする募集方法

5 円滑に協力してもらうための工夫

6 協力を受け入れるための町会側の仕組みづくり

1. 調査結果・考察と施策の方向性

(3) 子育て世代の町会に対する認識

調査結果と考察

- ★ 町会に加入する「きっかけがない」し、「誘われていない」という意見が多数。ただし、きっかけや勧誘があればよいかというだけでなく、「入ることのメリットがわからない」「入らなくても困っていない」という意見も多い。
- ★ 「町会＝入らないと困るもの」ではなく、「入ってみたい」と思わせる魅力を積極的にアピールしていくことが今後のポイントと考えられる。魅力＝イベントだけではなく、従来行っている防災や環境美化など生活インフラに関わる活動もアピールポイントと考えられる。
- ★ 「町会へのメッセージ」では、町会に対する要望のほか、過去の取り組みに対する感謝のことばや、「できることは協力したい」・「応援しています」といった声も多かった。町会の魅力のアピールにあたっては、メリット・デメリットという軸だけでなく、このような共感・応援の輪を広げる意識も重要ではないか。

施策の方向性

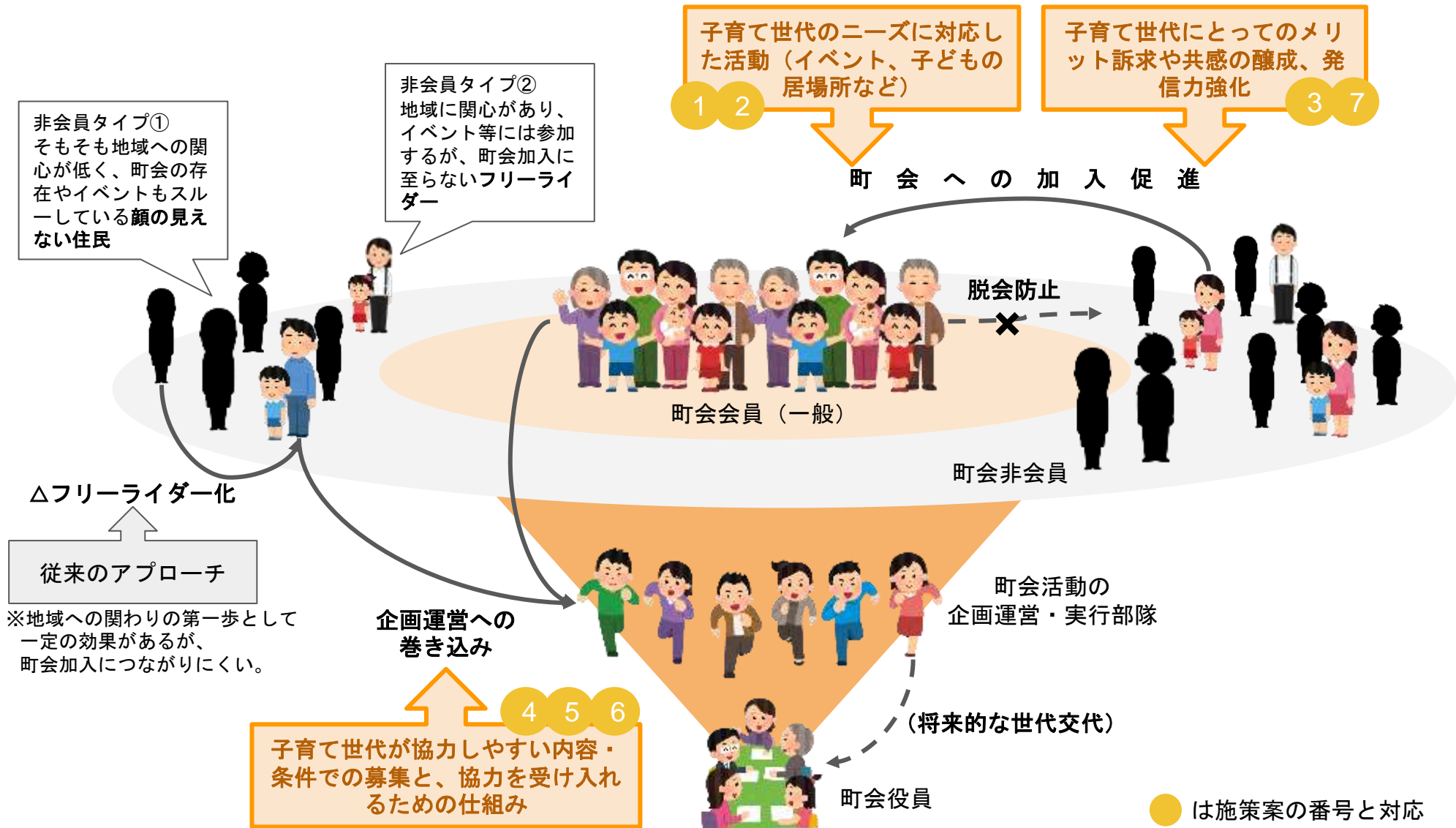
3

町会情報の
発信力強化
(再掲)

7

情報発信する
内容の工夫

2. 町会の課題と施策の関係（イメージ）



3. 施策概要

子育て世代のニーズに対応した活動（イベント、子どもの居場所など）

施策の方向性	概要
①子育て世代向けイベントの実施と有効活用	イベントの場で町会をもっとアピールする、町会に入っている（またはその場で入る）とメリットがある形で開催する、子育て世代の協力者と一緒に活動するための場として活用する、など。各イベントでの目的の明確化も必要ではないか。
②町会会館を活用した「子どもの居場所」の提供	既存施設では充足されていない「子どもの居場所」とは、日中に乳幼児親子が目的を問わず気軽に立ち寄れる場所や、放課後～親の帰宅時間まで子どもが過ごせる屋内施設などではないか。町会会館を活用してそのような場を地域に提供してはどうか。

※ は、次節で詳細をご提案する項目



3. 施策概要

子育て世代にとってのメリット訴求や共感の醸成、発信力強化

施策の方向性	概要
③町会情報の発信力強化	<p>子育て世代のニーズを踏まえ、定期的に幼稚園・保育園・小学校を通して情報発信できないか。また、FBと同時投稿可能な他のSNS（InstagramやTwitterなど）を併用し、関心が低い人でも比較的目に入りやすい町会掲示板の有効活用もできるのではないか。</p> <p>※今回のアンケートも、主要な結果とメッセージを整理して町会掲示板に貼りだせば、協力的な雰囲気を知ってもらえるのでは！</p>
⑦町会から情報発信する内容の工夫	<p>人によってメリットと感ずるものはさまざま。その人にとってのメリットを見出してもらうために、色々発信する！（特に個人ではできないことの実現か。）イベントのお知らせに終始せず、イベント以外での活動（花壇の整備や見守りなど、皆の生活に役立っていること）も発信していけないか。</p> <p>また、活動内容などの事実とあわせて〈想い〉や〈ストーリー〉を語りターゲット層の支持を得ていく「共感マーケティング」の考え方や、会員制NPOやクラウドファンディングのように応援の気持ちを具体的な行動に変換させる仕組みにも、情報発信のヒントがあるのではないか。</p>

※ は、次節で詳細をご提案する項目

3. 施策概要

子育て世代が協力しやすい内容・条件での募集と、協力を受け入れるための仕組み

施策の方向性	概要
④子育て世代の協力を得やすくする募集方法	ボランティア募集に有効な方法を整理できないか。（作業内容とスケジュールを明確にチラシに書いて出す・FBで都度募集する、募集人数を最小限にしてなるべく参加者のニーズや予定を鑑みて決めることを打ち出す、などいくつかのパターンに整理） まずは、今回連絡先をいただいた皆さんと顔の見える関係を作るところから始めては。
⑤円滑に協力してもらうための工夫	初心者向けのおためし活動、当日運営に携わるメンバーの託児、プレーパーク運営NPOとの連携（イベント待ち時間での遊びなど）など。※他地域の事例や、やきいも防災訓練に参加して感じたことを活かして提案したい。
⑥協力を受け入れるための町会側の仕組みづくり	子育て世代向けの企画提案を出していきやすいように、「子育て支援部」を新設（※青少年部との整理が必要？）。固定のコアメンバーとしての「子育て支援部」とそのサポートメンバー（スポット支援のボランティアメンバー）という構成で活動していけないか。 また、持ち込み企画を全力でサポートする仕組みをつくってはどうか。

※ は、次節で詳細をご提案する項目

IV. 施策のご提案

1. 町会の課題と子育て支援の強化
2. 子育て世代を巻き込んだ体制づくり
3. 活動内容の具体案
4. 本アンケート結果のフィードバック
5. その他アイデア集



1. 町会の課題と子育て支援の強化

(1) 町会の課題とその解決に向けて

<町会の課題と解決に向けて>

課題① 若年層（家族形成期・独身者）の加入

- 春日町では特に多い「家族形成期」（≡子育て世代）にアプローチが必要。

課題② 町会に加入していない人から「加入方法がわからない」などの意見が多くある

- まずは接点を増やすことが必要。

課題③ 加入しても活動していない人が多い

- 活動しやすい場を整備することが必要。

※「これからの町会・自治会運営のヒント集」も参考に整理。



子育て世代へのアプローチを増やすことで課題の解決に結びつく！

1. 町会の課題と子育て支援の強化

(2) 子育て世代への取り組みを増やす意味

子育て世代への取り組みを増やすことで...

子育て世代が地域と繋がりやすくなる

今回のアンケートでも地域で仲間集めができる仕組みを求める意見が23名、同世代との交流機会、他世代との交流機会を求める意見がそれぞれ29名と20名いることから地域との繋がりを求めている子育て世代が一定数いることがわかる。

町会未加入者と町会との接点を増やせる

今回のアンケートでは現在の居住地に住んで1年以内の人の73%が仲間集めや交流を希望していた。また、地域でのイベントを求めている人は「子どもの居場所」に次いで2番目に多く春日町民だけでも52名もいた。このため子育て世代向けのイベントを増やすことで転入者を含めた子育て世代と町会との接点を増やすことができる。

町会加入者の活動の場を増やす

子育て世代向けのイベントを増やすことを通して引退した世代に子どもを見守ってもらったり多世代での交流を促したりすることで、より多くの住民の活動の場を提供することができる。



応援したくなる雰囲気！



子どもの
見守り

地域の
安心安全

地域への
愛着形成

春日町の
イメージアッ
プ



家族形成期の若年層の町
会加入促進
+
町会全体の活性化

1. 町会の課題と子育て支援の強化

(3) 応援したくなる雰囲気醸成

応援したくなる雰囲気！ の重要性

- ★ 人が動くための原動力はメリット・デメリットだけではない！
- ★ 「押し活」やクラウドファンディングに見る「応援したい」心理は、地域サービスにも当てはめられる！
- ★ 町会は身近な組織で自分たちの住まいにも関係ある組織。
⇒より応援したくなるはず！

応援したくなる雰囲気を醸成するためのポイント

1. 「育てたい」欲求

町会の想いを詰め込んだくビジョン>を発信。共感して一緒に育ててくれるファンを増やす。

2. 返報性の原理

子育て世代のために活動しているというスタンスをアピールする。「恩返ししたい」と感じる気持ちを引き出す。

3. アンダードッグ効果

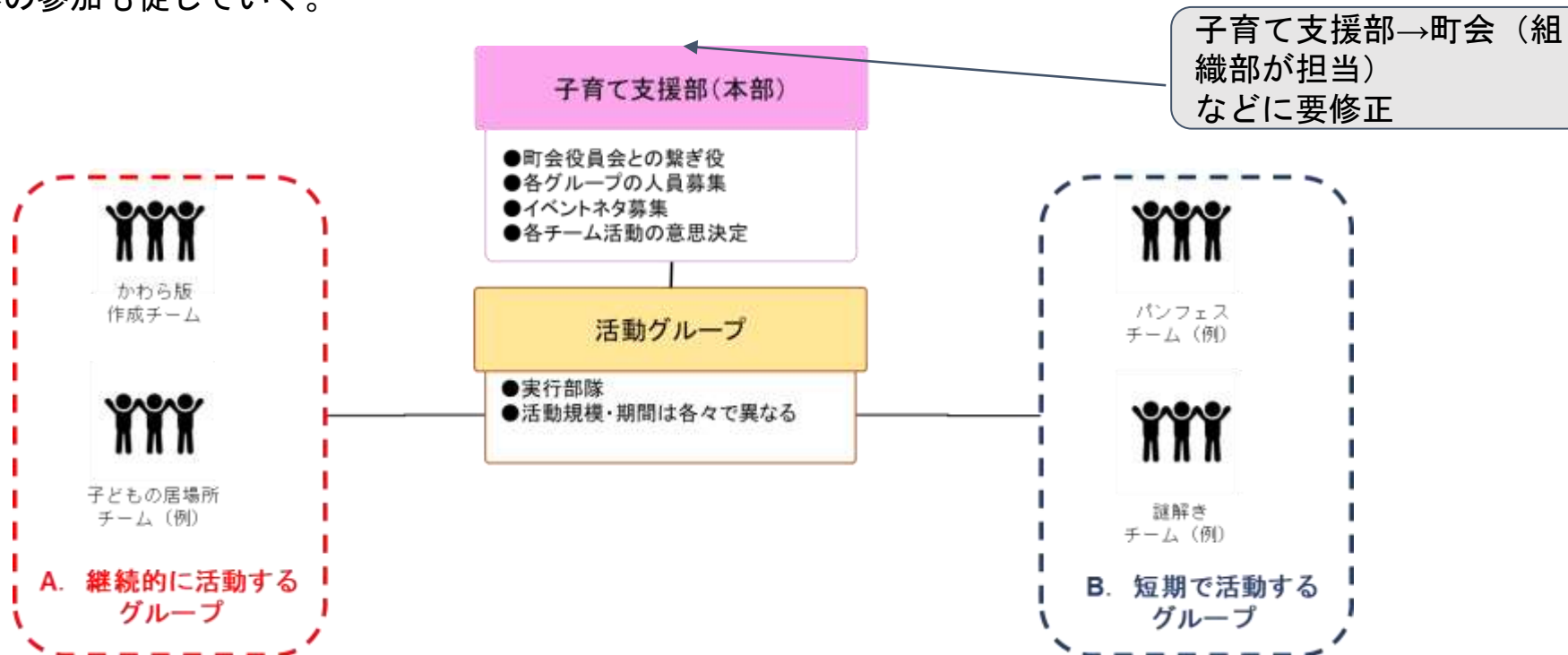
あえて弱みを見せることも応援につながる。「何に困っているか」を明確にした発信が効果的な場合も。

ご提案：子育て世代のために活動する意義を明確且つ意識を統一するためにスローガンを作るのはいかがでしょうか。

2. 子育て世代を巻き込んだ活動体制づくり

(1) アウトラインーアソシエーション型での活動ー

- <アソシエーション>とは、共通の目的や関心を持つ人々が自主的に結成する集団・組織をいう。子育て世代への取り組みにこの考えを取り入れることで、協力者の参加のハードルを下げ、かつ新規参画者を取り込むことを継続的に行えるようにする。
- また、活動グループを分割することで、町会が担う対応を分担し、負荷を減らす。活動を通して、町会組織への参加も促していく。



- ★かわら版作成など、活動が1回で終わらずに継続される
- ★メンバーは基本的には固定となるが、適宜募集をかける

- ★イベントなど、活動を1回で終わらせることができる
- ★メンバーは活動毎に、SNSや掲示板で募集をかける
- ★規模、期間は活動によって、それぞれ異なる

2. 子育て世代を巻き込んだ活動体制づくり

(1) アウトラインーアソシエーション型での活動ー

メリット

- ①役割を分散することで、作業負担を減らすことができる
- ②継続的な活動と短期的な活動のグループに分けることで、協力者の参加条件・目的に合わせることが出来る
- ③人が固定化していないグループがあることで、出来上がっているコミュニティに入るハードルが無くなる
- ④都度協力者を募集することで、流動的になり新規参画者を獲得しやすくなる
- ⑤条件を分けられることで、多様な人材へのアプローチが可能になる

デメリット

- ①募集をかけても集まらない可能性がある
- ②春日町町会にとっては初めての試みなので、試行錯誤が必要となる可能性がある
- ③短期で活動するグループは人の入れ替わりがあることから、スキル蓄積が難しく、初回の説明などに時間を要する可能性がある

◆デメリットへの対策

①-1 日頃からのSNSを活用した町民へのアプローチ

イベント時の様子をリアルタイム発信したり、「#ハッシュタグキャンペーン」など日頃から、SNSを活用して投稿のリーチ数を獲得しておく。また、町会や学校・子供向け施設の掲示板も活用する。

①-2 多様な人材にアプローチ

子育て世代が中心になっているが、子育てがひと段落した50代60代の方や教育学部・就職活動前の学生など、“子育て世代”に囚われずに募集をかける。

② 始めから規模を大きくせずに運用を始める

段階を踏みながら進め課題を見つけて解消していくことで、リスク軽減ができ、手戻りが小さく済む。

③-1 定型化出来ることは、マニュアル化する

「町会（組織部など）との連絡手段」や「町会会館の貸出手順」など、同じような説明が発生するものは予めマニュアル化しておく。

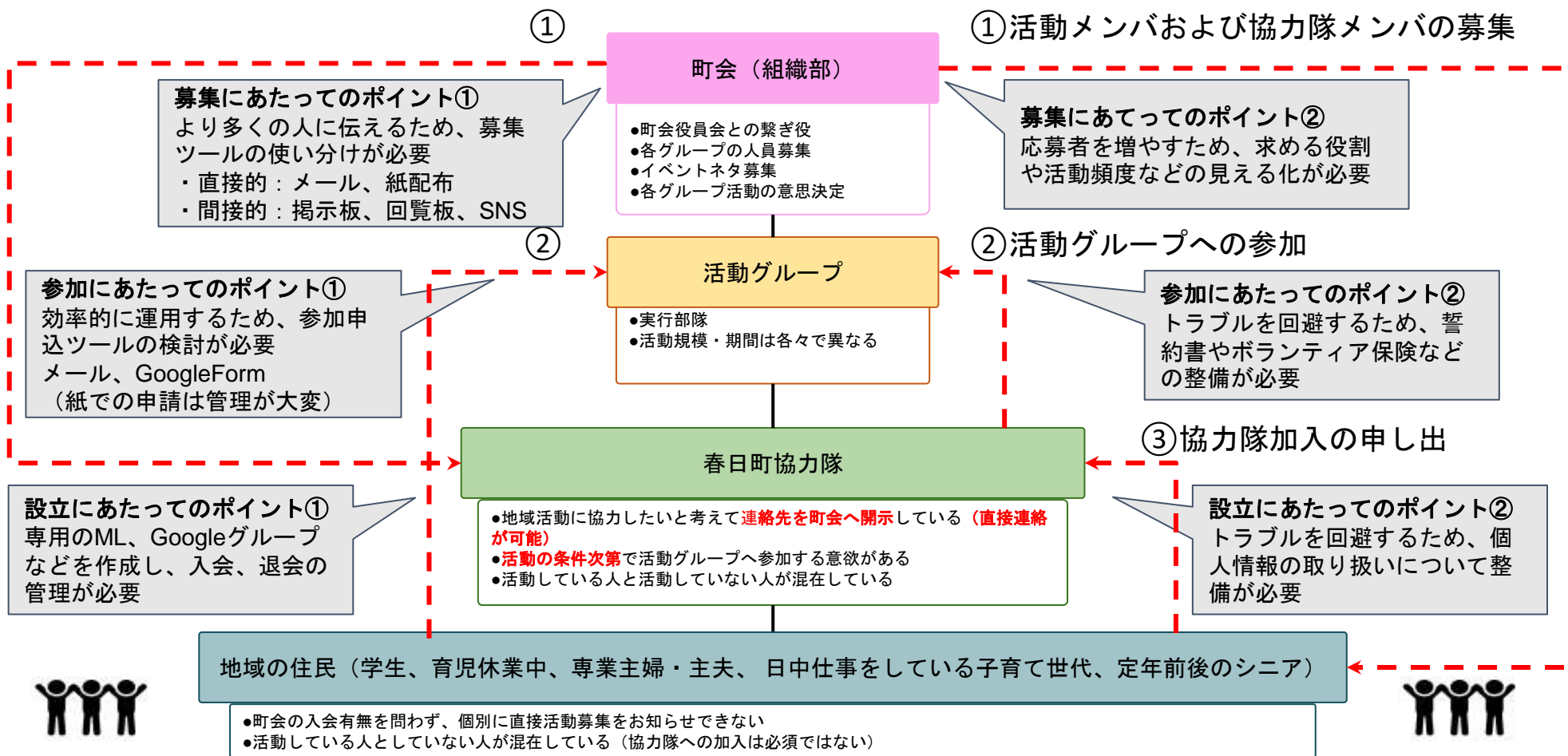
③-2 活動実績記録表を作り、記録を累積する

活動実績記録表に活動内容、実施期間、工数などを記録・累積しておくことで、次回以降の対応時の参考情報として効率化を図る。

2. 子育て世代を巻き込んだ活動体制づくり

(2) まずは協力者とつながる！ - 「春日町協力隊」の設立とメンバー募集 -

- 地域活動への協力意思がある方々を「春日町協力隊」としてグループ化し、連絡をとりやすい体制を整備。
➡ アンケートで連絡先をいただいた方々にアプローチするところから始めてみてはいかがでしょうか？



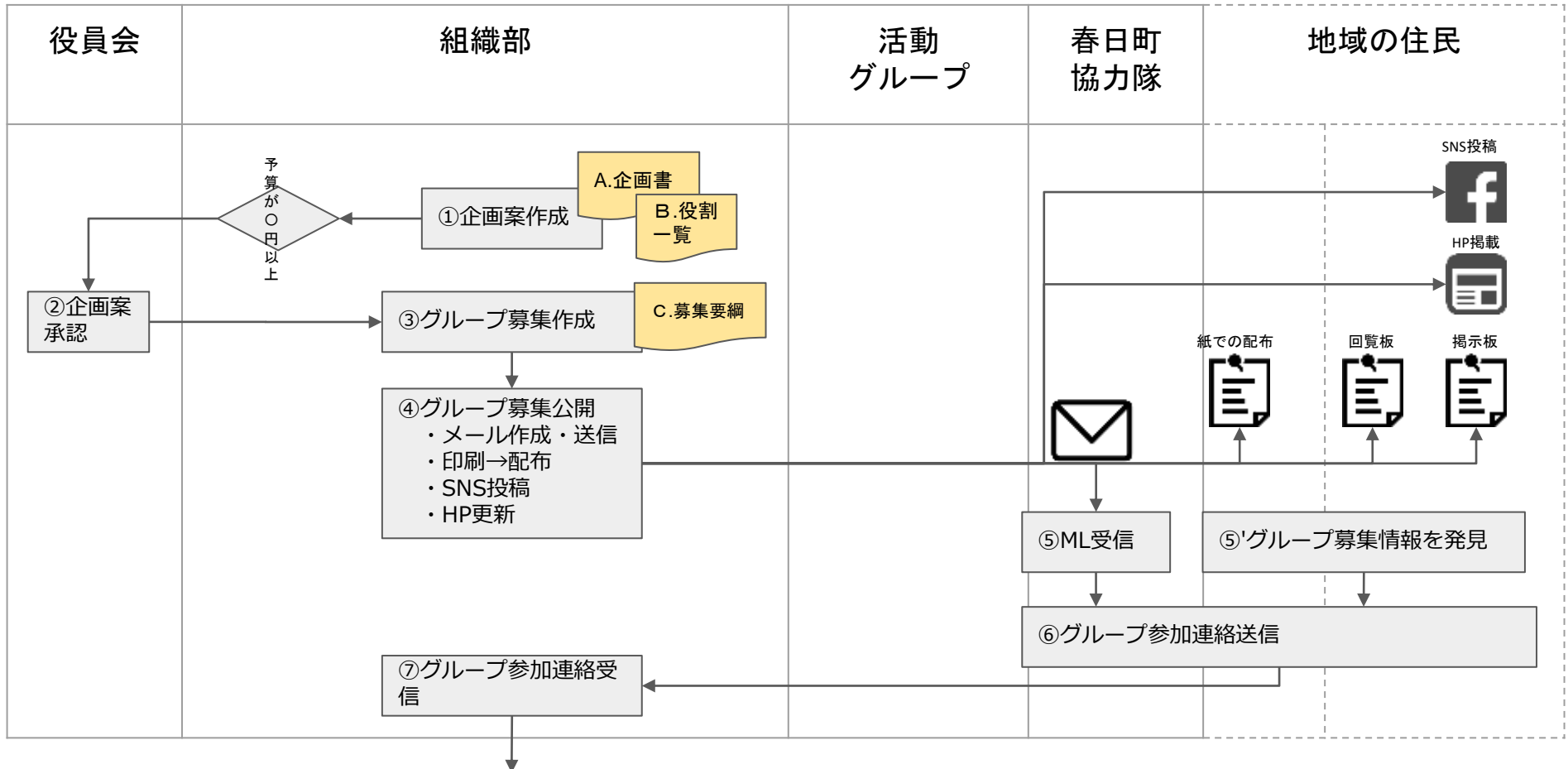
2. 子育て世代を巻き込んだ活動体制づくり

(3) 協力者に実際活動してもらう！ー活動グループの立ち上げー

- 以下のようなフローで、春日町協力隊や地域の住民から協力者を募り、実際に企画に基づいて活動する「活動グループ」を立ち上げることを想定。

<フロー案 (1/2) >

※「A.企画書」「B.役割一覧」の詳細は別紙様式を参照。

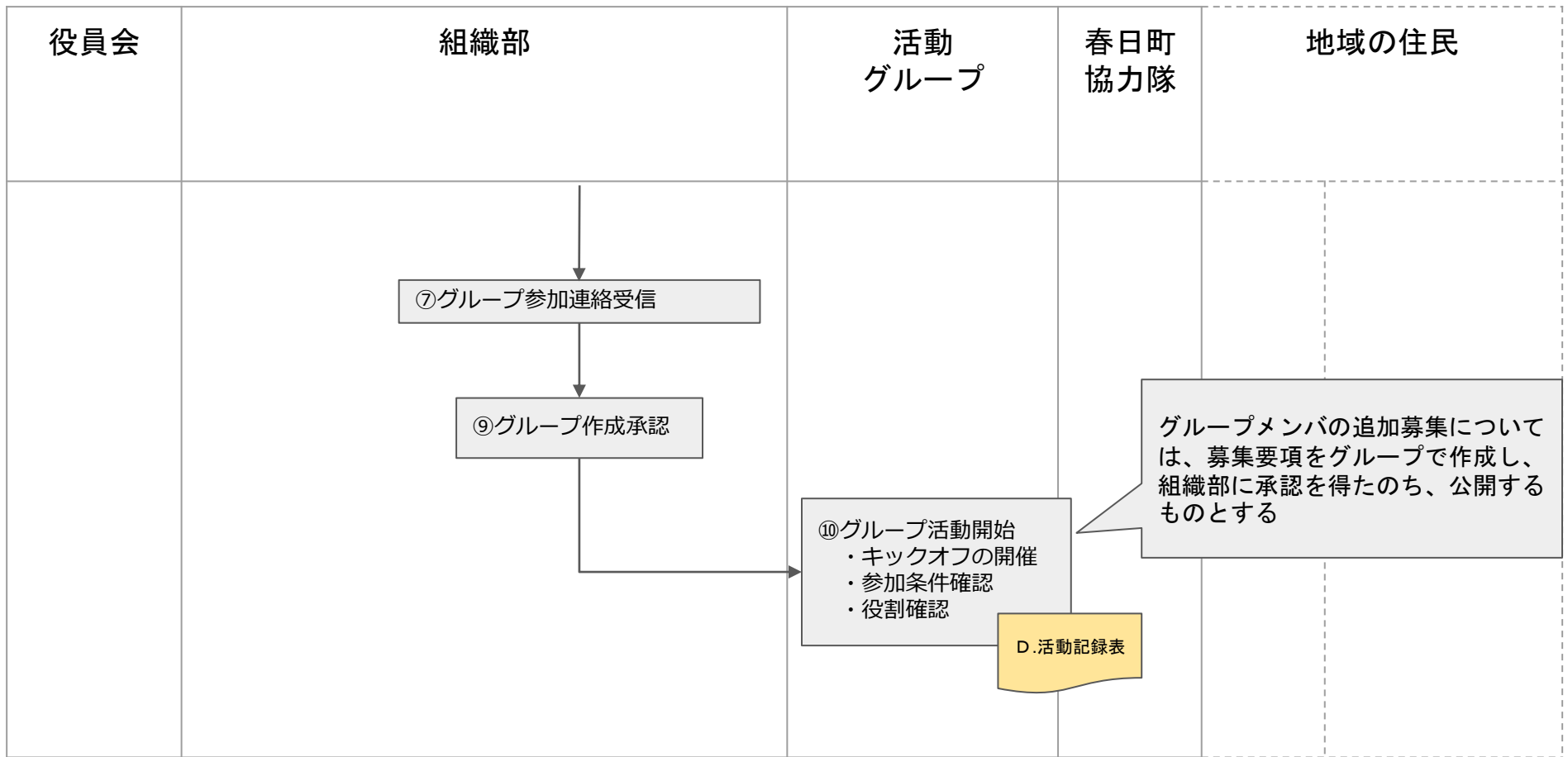


2. 子育て世代を巻き込んだ活動体制づくり

(3) 協力者に実際活動してもらう！ -活動グループの立ち上げ-

<フロー案 (2/2) >

※「D.活動記録表」の詳細は別紙様式を参照。



2. 子育て世代を巻き込んだ活動体制づくり

(3) 協力者に実際活動してもらおう！ー活動グループの立ち上げー

☆活動グループの立ち上げにあたって：「役割一覧」整理のご提案

- アンケート結果でも、地域活動に協力しやすい条件として、自分の予定や家族の都合を優先したいというニーズが高く、「協力内容が明確」という回答も多かった。
⇒募集時には、**必要な役割やその人数、活動期間、制約条件などを「見える化」**することが重要。

➡ 企画ごとに「役割一覧」（別紙様式）を整理することをご提案します！

♪期待できる効果♪

町会内部での
作業や判断の効率化

→ どのような役割に何人必要かあらかじめ整理しておくことで、企画実施可否の判断がしやすくなる。また、募集情報を発信する際にも活用できる。

応募への不安の軽減

→ メンバー募集情報において協力内容が見える化されていることで、手を挙げた場合に自分が何をすることになるかイメージしやすくなる。

「お手伝い」以上の
主体的な協力へ

→ 協力メンバーも運営の全体像を俯瞰できるようになるため、「（お手伝いしてくれる）お客さん」にとどまらず、主体的に協力しやすくなる。

運営の属人化防止

→ 手慣れた人で運営し続けている場合に発生しがちな「属人化」を防ぐ（または既に属人化しているものを他の担当者でもできるようにする）ための一助となる。

2. 子育て世代を巻き込んだ活動体制づくり

(4) 将来構想と実現ステップー専門部門「子育て支援部」の立ち上げー

- 組織部における取り組みが軌道に乗った場合、専門の部を立ち上げることで、活動のいっそうの進展や地域へのアピールにつながると考えられる。

信頼関係の構築

STEP1

まずは、子育て支援部（本部）を作るのではなく、組織部主導でかわら版作成グループと短期的なグループ（イベントなど※1）を作る。活動を通して、信頼関係の構築を図り、人脈作りを行っていく。
募集方法は、アンケートで連絡先をくれた人やSNSを活用して募集をかけてみる。

※1 町会会館を使ってバレンタイン足形アート作成イベントなど、簡単に出来そうなものでOK。

「子育て支援部（本部）を作るのではなく、」を削除

子育て支援部の立ち上げ

STEP2

STEP1で築いた関係の中で意欲がある人やSNSで募って、子育て支援部を立ち上げる。町会の仕組みやルールを知っている人をメンバーに入れておくと、スムーズである。



運用開始

STEP3

継続的な活動をするチームは対応を続けながら、イベント対応などを行う短期で活動するグループを作って運用開始する。無理はないように、開始時は規模を大きくせずに短期的なグループを作って、3回程、回してみる。数回程回して課題が抽出出来たら、対応策を考えて改善を図っていく。

3. 活動内容の具体案

(1) 持ち込み企画サポートプロジェクト

- 春日町にかかわるどんな人でも提案OKの持ち込み企画を、町会が全力サポートするプロジェクト。
- 町会活動の幅を広げるとともに、春日町で地域活動に関心のある方を発掘し関係構築することがねらい。

Win



町会

活動の幅が広がる！

地域活動に特に関心の高い住民や企画ができる人材を発掘できる！

サポートを通して町会の強みを実感してもらうことで、町会の意義や価値を認識してもらいやすい！

-

Win



春日町でやりたいことがある住民

個人では難しかった企画を実現することができる！

金銭的な負担や、活動場所の確保・仲間集め・広報などの手間が軽減される！

-

Win



春日町住民
(主に子育て世代)

ニーズに合った企画が増えて楽しい！

(投票でプロジェクト選定する場合) ニーズや意見を町会活動に直接的に反映させる機会が得られる！

3. 活動内容の具体案

(1) 持ち込み企画サポートプロジェクト

<実施の流れ（イメージ）>

① 企画募集告知

子ども関連施設へのチラシ配布や町会掲示板への掲示、SNS発信などで、企画を募集する。

（年1～2回程度）

<対象企画>

- A. 子どもや子育て世代を対象とした企画
- B. 子ども・子育て世代を含む多世代交流を目的とする企画のいずれかに該当するもの

<提案資格>

- ・春日町在住・在勤・在学のすべての方（町会加入有無を問わない）

春日町を盛り上げるアイデア、ありませんか？



② 企画の応募

企画アイデアを持った方からの応募を受け付ける。

<受付期間>

- ・募集告知から1か月程度

<提案方法>

- ・提案者情報及び企画概要（A4一枚の様式を想定）を町会へ期限内に提出。
※適宜、町会側でも記入をフォローする。

1人では実現できなかったこんなこと、やってみたい！



③ 支援対象企画の選定

1. まず、町会内部で、町会活動としての妥当性や実現可能性などを評価し、町会としてサポートする意義のある企画に絞り込む。
2. 1.で絞り込まれた企画を公開し、春日町住民による投票（GoogleForm等を使用したWeb投票）をおこない、上位のものを選定する。

本当に実現できそう？
町会の活動として適切？



町会

これはいい企画！
応援したい！



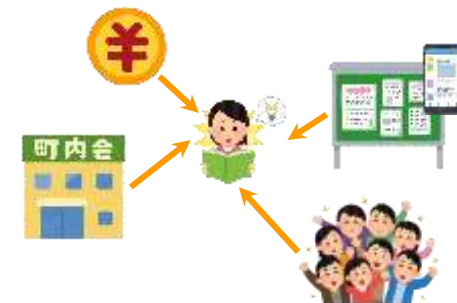
春日町住民

④ 支援の実行

選定した企画について、提案者をリーダーとした「B. 短期で活動するグループ」（P.34参照）を組成する。この活動に対し、以下のような支援をおこなう。

<町会による支援例>

- ・活動費補助（実費部分）
- ・ボランティア募集
- ・活動場所（町会会館など）の提供
- ・町会掲示板・SNSや各種町会ネットワークを活用した広報支援



3. 活動内容の具体案

(2) 町会会館を活用した「子どもの居場所」

子どもの居場所づくりを実施するにあたって～町会だからこそできる！！

課題	解決に向けて
1. 費用・物資	<p>→町会費の活用 利用できる条件が町会員のみであれば町会に入るメリットもあるため加入促進につながる。新たな加入者が増えれば町会費も増えることが想定できる。</p> <p>→公的助成金の活用 ※子どもの居場所づくりのための公的支援 国及び地方公共団体による「子供の居場所づくり」を支援する施策調べについて :子供の貧困対策 - 内閣府 (cao.go.jp)</p>
2. 人手	<p>→町会内であれば加入者の中に仕事を引退した世代も多い。特に春日町町会は加入者が多いことや今回のアンケートだけで24名もの協力希望者がいることを考えると人手を募りやすいことが想定できる。</p>
3. ネットワーク	<p>居場所づくりで実施する内容に応じて、必要な人材を探すことが課題になる。町会ではもともと町会員同士の交流もあり、また回覧板など双方向でコミュニケーションをとれる方法が確立しているため必要な人材も探しやすいと想定できる。</p>



町会だからこそその安心感

3. 活動内容の具体案

(2) 町会会館を活用した「子どもの居場所」

参考事例① 「ひだまり」(神奈川県横浜市)

六ツ川地区で子どもの居場所づくりを進める団体。

10月から毎月第2水曜日の午後3時から7時に中里4丁目にある椎の木自治会の会館を使い、居場所を開くことを決めた。放課後の子どもを中心に、学習支援や工作、アート活動などを行う予定。

([六ツ川に子どもの居場所 10月から自治会館で | 南区 | タウンニュース \(townnews.co.jp\)](#))

→毎週曜日を決めて町会会館を解放し、引退した世代の方々に来てもらって子どもたちを見るということはできないか。



参考事例② NPO法人楽膳倶楽部「みんなで晩ごはん」(東京都練馬区)

毎週木曜日の午後3時~7時に拠点を提供している。子どもが一人できてもOK。楽膳倶楽部のスタッフや近所の人がきているため宿題などを見てもらうこともできる。また晩ごはんも提供していて中学生までは300円で食べられる。大人も500円なので一緒に食べて帰ることもできる。

調理スタッフには交通費として1回500円を支払っている。また子どもが好きだという主婦の方がボランティアで来てくれていて親がごはんを食べる間小さい子どもと遊んでいてくれる。
([白 教室/習い事 フライヤー 縦 \(rakuzenkurabu.jp\)](#))

→子ども食堂と連携してやれないか。



参考事例③ まちライブラリー

地域のカフェなどに場所をつくって図書を持ち寄って、皆で図書館的に利用している。持ち寄った本に感想欄をつけておいて交流のきっかけにしたり、読書会を開くなどしている。
([まちライブラリー \(machi-library.org\)](#))

→町会会館で自分の好きな本を持ちよったり、自分の本と交換でそこにある本を借りるなどの取り組みができないか。



4. 本アンケート調査結果のフィードバック



- 本アンケートの調査結果をフィードバックし、地域活動に対する協力的な雰囲気伝えて協力の輪を広げていくきっかけとしたり、今回連絡先をいただいた方との関係づくりに活用されたりしてはいかがでしょうか。

フィードバック用の資料を
別紙として作成しました。
ご活用ください！



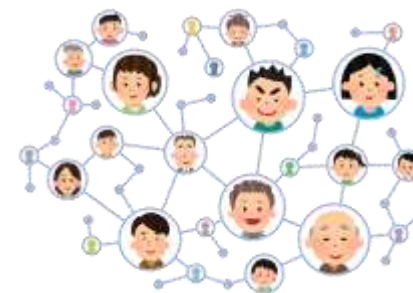
5. その他アイデア集

- その他、子育て世代をターゲットとした活動について、ママボノチーム内で出たアイデアをまとめました。よろしければご参考ください！

関連施策	ママボノからのアイデア
①子育て世代向けイベントの実施と有効活用	<p>★ こんなイベント、いかがですか？</p> <p>1. 「<u>ハロウィン×子ども見守りスポットめぐり</u>」 ハロウィンイベントとして、春日町内の子ども見守りスポット（ひまわり110番ほか有志のご家庭や公共/民間施設）をめぐってお菓子をもらうことで、子どもたちが防犯面で頼ることができる場所や人とのつながりをつくるきっかけにする。 PTAとも連携しやすい話題ではないか。 （参考事例）シナハロスンプラリー https://prtmes.jp/main/html/rd/p/000000034.000017494.html</p>  <p>★ イベント実施時に、こんな工夫はいかがですか？</p> <p>○ <u>イベント運営への〈飛び入りお試し参加〉の仕掛け</u> 子どもと一緒に参加できる程度のごく簡単な「お手伝い」への参加を呼びかけ、参加するとちょっとしたお土産をプレゼントする。小さな「お手伝い」体験を通して、徐々に運営への参加のハードルを下げることがねらい。 （例）イベント終了後の清掃など</p> 

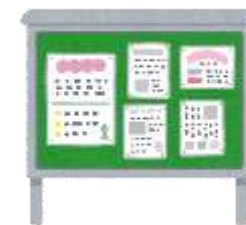
5. その他アイデア集

関連施策	ママボノからのアイデア
③町会情報の発信力強化	<p>★ SNSの双方向性を活かして、このような情報発信はいかがですか？</p> <p>○ #（ハッシュタグ）キャンペーン</p> <p>町会情報を発信するにあたり、すべてを町会執行部でおこなうには限界がある。例えば、イベント時に特定のハッシュタグをつけてSNS発信してくれた人にお土産をプレゼントするなど、春日町の皆さんの発信力も借りる形で盛り上げていく。第三者から情報発信してもらうことで、口コミ的な効果（町会の自画自賛ではなく中立的な意見として見てもらえる、応援や感謝の気持ちが可視化される など）も期待できる。</p> <p>（例）#春日町の四季</p> <p>年に4回、春日町の四季を写真に収めて「#春日町の四季」でSNS投稿してもらう。四季に合わせてテーマ選定は行う。役員の方にも入賞者決定に入っただき、最優秀賞は地元パン屋の商品券500円などを贈呈する。</p> <p>※贈呈品は地元還元出来るようなものなど”春日町”に限定されるようなものがよい。</p> <p>品物狙いで、町会に所縁のない人も紛れてくる可能性があるため。</p>





5. その他アイデア集



関連施策	ママボノからのアイデア
③町会情報の発信力強化	<p>★ 子供たちやまちの安全安心を住民自身の手で作り上げる活動はいかがでしょうか。</p> <p>○ <u>わんわんパトロール</u> いつものお散歩のときに周りにちょっと気を配りながら歩くだけでOK。 SNSを通して以下のことを投稿して交流を図ることもできます。 消えている電灯やゴミが散乱している箇所などの防犯連絡 子どもやご近所さんへのごあいさつ 見かけてほっこりしたことなど 東京都の取り組み https://www.bouhan.metro.tokyo.lg.jp/90_archive/topic/report_2019/10/p1017.html 世田谷区の事例紹介 http://npo-skr.sakura.ne.jp/New_HP/wanwan.html</p> <p>★ 町会掲示板を、もっとアピールしませんか？</p> <p>○ <u>町会ロゴの作成・町会掲示板への掲示</u> 町会ロゴ（焼きいも防災訓練時のTシャツロゴを想定）を決め、すべての掲示板の同じ位置に大きく掲示することで、町会や町会掲示板の存在感をアピールする。</p>



5. その他アイデア集

関連施策	ママボノからのアイデア
④子育て世代の協力を得やすくする募集方法	<p>★ 町会参加のハードルを下げるため、お試し体験や見学イベントを開いてみてはいかがでしょうか。</p> <p>○ 札幌市の事例 『201703_札幌市_新しい町内会へ_若い人を巻き込む町内会づくり読本』 P19 地域活動（公園の落ち葉拾いやものづくりイベントなど）に参加し、体験レポートを書いてもらう</p>  <p>★ クラウドファンディングの発想をボランティア募集に応用してみては？</p> <p>...クラウドファンディングでは、実行者がプロジェクトを公開して支援者からお金を集めるが、集める対象を「人（労力）」に置き換えて実施。自分の協力有無がプロジェクト実施を左右する、という当事者意識を持ってもらうことがねらい。</p> <p>① All or Nothing型：企画メンバー〇人、お手伝いメンバー〇人集まったら実施します！という声のかけ方。途中、「今〇人だからあと〇人来てくれたら実行になります！」といったアナウンスも効果的。</p> <p>② All-In型：実施は確定だが、集まった人数によって実施規模を変える方法。「〇人も集まったので、今年はいつもの内容に加えてこんなこともやります！」。</p>  <p>リターン案：町会お手伝いポイント（集めると町会費割引、表彰、など）、プロジェクトにちなんだプレゼント（例：焼き芋防災訓練ならサツマイモ増量、盆踊りなら屋台チケット、など）。</p>

5. その他アイデア集

関連施策	ママボノからのアイデア
⑦町会から情報発信する内容の工夫	<p>★このような情報も発信してみてもいいでしょうか。</p> <p>1. <u>イベント開催時はリアルタイムまたは当日中にSNSにて開催報告</u> 情報は熱いうちに発信すると、参加者が気にかけていたりするのでリ ーチ数が伸びやすい。凝った内容にする必要はなく、簡単に様子を文 章で伝えるだけでもOK!</p>  <p>2. <u>かわら版を町会や公共施設の掲示板に掲示（作るならば）</u> 町会の活動が見えにくいとの声もあるため、かわら版を掲示しておく と活動が見えるので、「知ってもらう」機会を増やすことができる。</p> 
その他	<p>事例共有</p> <p><u>託児付きワークスペース「おひとりーの」</u></p> <p>子どもを預けてママたちの自分の時間を作るサービス。同じ建物内に子どもがいるから 安心感がある。その他サービスも有。</p> <p>店舗案内 - 北区十条・NPO法人 子育てママ応援塾 ほっこり~の (hokkori-no.com)</p> 